

なづななづな切抜き模様を地に敷きてまだき春ありこのところに

(木下 利玄)

2月1日(日)朝、新見の山はうっすらと雪化粧をしていました。4日(水)は立春です。新見の2月はまだまだ厳しい寒さが続きますが、購買や図書室など校舎内の各所に蠟梅が活けられ、春近しの気分を運んでくれています。

冒頭の歌は、前川佐美雄氏の「秀歌十二月」に次の解説付きで紹介されているものです。「凍てた地の上にあの霜やけしたぎざぎざの葉っぱをびったりとくっつけている『なづな』。それはわれわれが子供の時にして遊んだあの切り抜き紙の形、その模様そっくりなのだ。それをかがみこんでつくづく見ている。そうして知らぬまにこんなところにさえもう春が来ていたのだといたく感動する。それが『まだき春あり』の一語に驚くばかり巧みに要約せられている。(後略)」

厳しい寒さの中に、春の気配を見いだして喜ぶ、わが国伝統の心の在り方でしょう。古文の学習で、藤原公任から「少し春ある心地こそすれ」の上の句を付けるよう要求された清少納言が「空寒み花にまがへて散る雪に」と付けて返し、好評を博したという話を扱ったとき、窓から空模様を眺めながら感に堪えないという顔をして聞いていた(ちょうど今ごろの時期だったように思います)生徒のことなども思い出されました。

春といえば、普通科3年生は自らの「春」を手にしようと2月補習に真剣に取り組んでいます。初旬の関西・中国地域から中下旬の関東地区の私大受験をしながら、25日からの国公立前期2次、3月中・後期に向けて寸刻も気が抜けない日が続きます。この努力が実を結ぶことを切に願っています。

1、2年次生の部活動では、スキー女子アルペン競技で、秋田で行われるインターハイに県代表として出場します。また、卓球男子個人でも3月に香川県で行われる全国選抜大会の出場権を得ています。どちらも小学校時代から続けてきた競技の成果が高校でも発揮できたもので、ソフトボール、野球、弓道、陸上競技などに続いて生徒諸君の活躍の場が広がっていることを示しています。放課後のグラウンドでは少しの乾いたところを見つけて、また、体育館、武道場で基礎練習や体力づくりに励む多くの部員たちの姿を見ることが出来ます。けがをしないよう、励まし合って高め合えるよう、明るく精進してほしいと思います。

春に向かって、明るい話題を提供できるよう努めますので、これからも再々このサイトをお訪ねいただきたいと思います。

平成乙未歳如月朔日

岡山県立新見高等学校長 松井 健一